

金剛流、観世流の一級の出演者による謡曲の魅力の徹底解剖

謡曲は おもしろい

平成**19**年**5**月**10**日(木)

午後**6**時**30**分開演

府民ホールアルティ

出 演

金 剛 流 金剛永謹
(助吟) 豊嶋晃嗣 宇高竜成
観 世 流 井上裕久
(助吟) 吉浪寿晃 浦部幸裕
解説・進行 権藤芳一 (演劇評論家)
司 会 南畑レイ子

主 催 京都和文華の会
共 催 真如苑
協 力 立命館大学アトリサーチセンター
社 団 法 人 京都デザイン協会
NPO法人 京都文化企画室
NPO法人 檜の会
謡 本 司 檜書店

ご挨拶

本日はご来場いただきありがとうございます。

「京都和文華の会」は日本の伝統文化に様々な形でアプローチし、多くの方々にその良さを伝えていければと、伝統文化と京都が大好きな有志が集まり、2005年秋に発足いたしました。

その最初の試みとして日本の文化を構成する大きな柱である伝統音楽を取り上げ、特に次代を担う方々にその良さを知っていただくプログラムを実施したいと考えておりましたが、主旨にご賛同いただいた真如苑の社会貢献事業として全面的なご支援をいただくこともでき、2005年には国際日本文化研究センターの笠谷和比古先生のプロジェクトとタイアップして、「伝統音楽を探る」と題したシンポジウムを権藤芳一先生をはじめ諸先生方にご参加いただき開催することができました。そのシンポジウムは、多くの方から高い評価をいただいた意業深い催しとなりました。

その成果を踏まえて昨年5月に、地歌奏者の菊原光治師とシンポジウムパネリストの一人である久保田敏子先生の解説で、伝統音楽の魅力を探るレクチャーコンサート「地歌はおもしろい」をこのホールで開催いたしました。その結果は私どもが期待しておりました以上の反響をいただき、たいへん嬉しく感謝しております。

今回は、前回の成功を受けて「謡曲」を取り上げました。日本の能楽界で活躍の出演者の皆様と構成等を担当たまわりました権藤芳一先生のお力で、「分かりやすく、楽しい」伝統音楽の魅力を皆様方にお伝えすることができ、その伝承に少しでもお役にたてることができたと念願しております。まだまだ未熟な団体ですので、至らぬところも多いと存じます。今後とも皆様方のご指導をいただきながら一步一步、前へと進んでまいりたいと思っておりますので、どうかよろしく願いたします。

おわりになりましたが、ご出演者をはじめ多方面でお力添えをいただきました関係各位に、また本日もご来場いただきました多くの方に心からお礼を申し上げます。それでは間もなく開演です。どうぞ、最後までお楽しみください。

京都和文華の会

代表 早川 聞多

謡曲はおもしろい

解説と実演のプログラム

権藤芳一

I

II

III

謡曲について

お話し

流儀の違い

能謡と素謡

謡曲（うたい）の形

（演奏を中心として）

I

謡曲について

お話し 権藤 芳一

(1) 謡は面白い

能楽と謡曲

○能の上演形態

- 1 能 (シテ・ワキ・アイ―面・装束 囃子―全曲)
半能 (後場のみ)
- 2 袴能 (面・裳束つけず)
- 3 舞囃子 (一曲の一部分・面装束つけず)
- 4 仕舞 (囃子なし 一曲一部を舞う)
- 5 番囃子 (面・装束つけず、所作なし)
- 6 素謡 (謡のみ全曲)
- 7 一調・一管 (謡の一部と囃子のみ)

○能の役籍・流派

- シテ方……観世・宝生・金春・金剛・喜多
ワキ方……高安・福王・宝生 (進藤)
ハヤシ方……笛 ・一噌・森田・藤田 (春日)
小鼓・幸・幸清・大倉・観世
大鼓・葛野・高安・石井・大倉・観世
狂言方……大藏・和泉 (鷲)

―素謡の歴史―

謡曲、謡、諷、謳、詠 (うたい)

能謡―能と関連しながら歌う場合

素謡―能から離れて単独に歌う

○室町中期 (世阿弥伝書)

(うたい) を独立して歌われていた

座敷謡 (内にての音曲)

観阿弥 曲舞を能に摂取 (大和猿楽)

旋律美 (メロディ) ……小歌節

拍子 (リズム) ……曲舞節

曲舞―独立した謡い物

祝言謡

『四季祝言』 (小謡集) 17曲

○室町後期

うたいの普及「番謡」の発生

玄人―手猿楽 (セミプロ)―公家、武家

○江戸時代

謡講 (庶民の楽しみ)

『閑吟集』 (流行歌謡集)

大和節 (大和猿楽の謡の一部)

番謡 (現在の素謡)―玄人の芸能

・座敷諷大事也

・砧・蝉丸・大原御幸―座敷謡に作りたるもの

・紅葉狩―能ばかり、座敷謡にてはなく候

謡本の刊行と能本

(素人稽古人の増加―専門の師匠)

舞台演劇としての能は式楽化

うたいは庶民層に普及

— 謡文化の普及 —

能と近世文芸—俳諧—芭蕉

謡と近世音曲—浄瑠璃—義太夫

古曲—豊後節系浄瑠璃

便用謡

替謡(やつし謡・わらべ謡)

(2) 謡い方

○能謡と素謡との違い

○流派による違い

ゴマ—音符自体の違い

フシとコトバ

コトバ

フシ(ツヨ吟とヨワ吟)

拍子(合・不合)

平ノリ・中ノリ・大ノリ

(二字一拍)(一字一拍)

ツヨ音階

クズシ音階

ヨワ(基本)音階

サシ音階

下音
下ノ中音
中音
上音
クリ

崩ノ下
下音
下ノ中音
下ノ中ウキ

下音
中音
中ウキ
上音
上ウキ
クリ

中音
サシ上音
サシ上ウキ

流儀の違い
能謡と素謡

○鼎談

金剛永謹

井上裕久

権藤芳一

演奏 放下僧

金剛流 金剛永謹

(助吟) 豊嶋晃嗣

宇高竜成

観世流 井上裕久

(助吟) 吉浪壽晃

浦部幸裕

金剛流

地中の都ヤ筆ニ書クとモ及バじ。
 東ニは。祇園。清水。落チ来ル滝の。
 音羽の嵐に地主の桜は散リ散リ。
 西は法輪。嵯峨の御寺廻らば廻れ。
 水車の輪の井関くの川波川柳。
 は水に揉まる。ふくら雀は竹に。
 揉まる。野辺の薄は風に揉まる。
 茶臼は挽木に揉まる。げにまこと。
 忘れたりと筑子は放下に揉まる。
 る。筑子の二つの竹の代々を。
 重ねてうち治めたる御代かな。



檜書店

<http://www.hinoki-shoten.co.jp>

謄本の一部使用は今回特別に檜書店の許可を得ています。

観世流

シテ上面白ハの花ハ都ハやハ筆ハに書クとも
小歌拾遺及バじハ東ハにハ祇園ハ清水ハ落チ来ル
シテ上隴ハの音羽ハの嵐ハにハ地主ハの櫻ハ散リ
シテ上散リ西ハ法輪ハ嵯峨ハの御寺ハ廻ラば
シテ上廻レ水車ハの輪ハ臨川堰ハの川波ハ
シテ上川柳ハ水ハに揉マるハ枝垂柳ハ
シテ上風ハに揉マるハふくら雀ハ竹ハに
シテ上揉マるハ都ハの牛ハ車ハに揉マるハ
シテ上茶白ハ挽木ハに揉マるハげハにまコと
シテ上忘レたりハとよ筑子ハ放下に揉マ
シテ上るハ筑子ハの二ツ乃竹ハの代々を
シテ上重ねテうち治マりタる御代ハかハ

謡曲（うたい）の形

演奏を中心として

金剛流

金剛永謹

（助吟）豊嶋晃嗣

宇高竜成

観世流

井上裕久

（助吟）吉浪壽晃

浦部幸裕

歌舞伎〔勸進帳〕

市川右近（テープ）

金剛流 雪

（詞章）

ワキ次第『末の松山はるばると。末の松山はるばると。行方やいづくなるらん』

ワキ「これは諸國一見の僧にて候。われこの程は奥州に候ひしが。又思ひ立ち津の國天王寺へ参らばやと思ひ候

ワキ（道行）『墨染の衣ほすてふ日も出でて。衣ほすてふ日も出でて。そなたの雲も天さがる鄙に馴れ行く旅の空。野に臥し山を分け過ぎて。これぞ名に負ふ津の國や。野田の渡りに着きにけり。野田の渡りに着きにけり

ワキ「急ぎ候程にこれははや。津の國野田の里とかや申し候。

あら笑止や。晴れたる空俄かに曇り雪降り。東西を辨へず候。暫くこの所にて雪を晴らさばやと思ひ候

シテ『あら面白の。雪の中やな。あら面白の雪の中やな。暁梁王の園に入れ。雪群山に満てり。夜庚公が樓に登れば。月千里に明らかなり。

われも真如の月出でて。妄執の雪消えなん法の。慧日の光を頼むなり

ワキ「不思議やなこれなる雪の中より。女性一人現れ給ふは。如何なる人にてましますぞ

シテ『誰とはいかで白雪の。唯おのづから現れたり

ワキ『われとは知らぬ白雪とは。さてはおことは雪の精か

シテ『いやさればこそわが姿、『知らぬ迷ひを晴らし給へ

ワキ『さては不思議や雪の女に。言葉を交はすもただこれ法の。功力を疑ひ給はずしてとくとく成道なり給へ

シテ『あらありがたの御事や。妙なる一乗妙典を。疑ふ心はあらかねの地『土に落ち身は消えて。古事のみを思ひ草佛の縁を結べかし。われとはいさや白雪の。積る思ひはいやましに有明寒み夜半の月

シテ『峯の雪汀の水踏み分けて地『君にぞ迷ふ。道は迷はじな津の國の。野田の川波高瀬漕ぐ袖のしがらみひぢまさり。岩にせかるる沖つ舟。やる方もなきわが心。浮かめ給へや御僧と。月にひるがへす花衣げに廻雪の袖ならん

シテ『朝ぼらけ野田の川霧。絶え絶えに

シテ『あらはれ渡る

シテ『姿もさすが白々の地『姿もさすが白々の。峯の横雲

シテ『立ちのぼる東雲も地『明けなば恥かし暇申して歸る山路の梢にかかるや雪の花。梢にかかる雪の花は又消え消えとぞなりにける

（『謡曲大観』による）

観世流

・使用謡

羨の端

七十二候

王代記

駅路

服忌令

画図

日蓮御書

選択集

竹弄

秋津国

九重

順礼

源氏の題

十四經

一向三国伝来

〔詩章〕九重

サシ和今洛陽の名目を。世俗に呼は樵木町。川原榎木新からすま。是より略の狂哥とす。上寺御幸魅屋富柳

堺高。阿の東に車烏丸。又一ツ首には両が室衣新釜西小川。油醒井。堀の岩神。曲下猪黒大松日暮に智恵光院。淨福千本。右近かねがへ。扱横小路は鞍社寺上立に五辻や。須磨今出川本誓に。武者とつらねて一中や。三筋の長者出水下。魚丸竹屋夷二条押。上御池姉三六角に蛸錦。四綾仏光高辻に松。樋口五条楊梅。六条佐女牛や七の坊。北七条に塩とかや。八の坊梅八条に。針信濃から橋。九条是そ九重

・乱曲扇拍子(やつし謡)

酒三輪
日待頼政
悪性盛久
踊鶴飼
茶屋小町
大食景清
菓葵上
酒三井寺
乞食山姥
大尺安宅
単景清
貞見世百万
酒よりまさ
相撲花月
羞自然居士

簀鉢木
酒はちの木
野郎供養

・乱曲組盃(やつし謡)

野郎高砂
才覚兼平
夜拔半部
勒角田川
酒白楽天
芝居芦荊
貧乏船橋
傾国とほる
酒蟻通
博奕雲林院
透腹三井寺
酒藤戸
乞食雲林院
杉焼白楽天
貧僧俊寛
蕎麦切道成寺
酒鉄輪
田楽とほる

・乱曲颯々颯箱(やつし謡)

くるハ高砂
大食やし
ねこ田むら
餅長良

大酒忠則
くるハ放下僧
盗人鉄輪
将基三井寺

くらや花月
てんかく女郎花
うは浮ふね
色里融

酒もり海人
豆腐藤戸

たいこ実盛
そうか通小町

灸白楽天
傾城うとふ

悪性たつ田
ばくち東岸こじ

勘当蟬丸
新地芦かり

山衆阿こき
わか衆蟻通

乱酒八嶋

「安宅」勸進帳

能と歌舞伎

演奏

歌舞伎

能観世流

能金剛流

〔詩章〕

シテ・それつらつら 惟みれば 大恩

教主の秋の月は 涅槃の雲に隠れ
生死長夜の長き夢 驚かすべき人も
なし

ここに中頃 帝おはします おん名
をば 聖武皇帝と 名づけ奉り 最
愛の夫人に別れ 恋慕止みがたく
涕泣眼にあらく 涙玉を貫く 思ひ
を善途に翻して 廬遮那仏を建立す
かほどの霊場の 絶えなんことを悲
しみて 俊乗坊重源 諸国を勧進す
一紙半銭の 宝財の輩は この世に
では 無比の楽に誇り 当来にては
数千蓮花の上に座せん 帰命稽首
敬つて白すと 天も響けと読み上げ
たり

〔謡曲大観〕による)

祝言「高砂」

演奏

観世流・金剛流

〔詩章〕

地上歌「四海波静かにて。國も治まる
時つ風。枝を鳴らさぬ御代なれや。
逢ひに相生の。松こそめでたかりけ
れ。げにや仰ぎても。ことも愚かや
かかる世に。住める民として豊かなる。
君の恵みぞ。ありがたき君の恵みぞ
ありがたき

〔謡曲大観〕による)

出演者のプロフィール



金剛永謹

金剛流シテ方二十六世宗家。

昭和26年京都生まれ。二十五世宗家金剛巖の長男。父に師事。昭和31年仕舞「狸々」で初舞台、昭和33年「狸々」で初シテ。平成10年金剛流宗家を継承、財団法人金剛能楽堂財団理事長、社団法人日本能楽会常務理事、金剛会名誉会長。昭和59年「京都市芸術新人賞」昭和61年「京都府文化賞新人賞」を受賞。著書に「金剛家の面」がある。



豊嶋晃嗣

金剛流シテ方

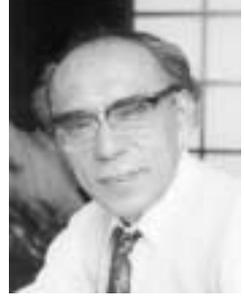
昭和48年生。5歳のとき初舞台、以来「石橋」・「乱」・「望月」と開曲。金剛流次世代のホープとして東京・京都・広島・福岡を中心に各地で活動。北九州市民文化奨励賞。金剛会理事。慶應義塾大学卒。



宇高竜成

金剛流シテ方

昭和56年生まれ先代及び当代金剛宗家、父・通成に師事。3歳の時初舞台。平成5年に「狸々」で初シテ。平成10年京都能楽養成会に入会。能楽師の活動をしながら、平成16年立命館大学卒業。同年9月、「石橋」を披く。京都を中心に活動している。



権藤 芳一
ごんどう よしかず

演劇評論家

主著

「近代歌舞伎劇評歌論」「世阿弥を歩く」「能に生きる歴史群像」「能楽手帖」「文楽の世界」「上方歌舞伎の風景」等
昭和9年京都市生まれ、同志社大学文学部卒業、在学中より武智鉄二氏に師事し、雑誌「演劇評論」の編集や同氏が演出した前衛・実験劇の演出助手等を務めたのち、昭和33年より京都観世会館で事務局長として30年間勤務。
平成元年より大阪学院大学国際学部で古典芸能を論ずる（平成13年定年退職）。現在フリー。演劇評論等に幅広く活躍している。
文化庁、京都府、京都市の各文化財保護審査委員を務める。
日本演劇学会、芸能史研究会、楽劇学会、歌舞伎学会、能楽学会に所属。



井上 裕久
いのうえ ひろひさ

昭和30年7月26日生 観世流シテ方 京都在住
二十五世観世宗家故観世左近、二十六世宗家観世清和及び父九世井上嘉介に師事。
翁・道成寺・石橋・乱・安宅・正尊・望月・砧を開曲。国指定重要無形文化財「能楽」認定者。社団法人日本能楽会会員。社団法人能楽協会京都支部常議員。社団法人京都観世会理事。京都能楽会理事



吉浪 壽晃
よしなみ としあき

観世流シテ方
昭和40年生まれ。故吉浪準一の長男。井上嘉介、井上裕久に師事。東京藝術大学卒。同大学にて故25世観世宗家観世左近、藤波重満に師事。道成寺・石橋・狸々乱、千歳を披く。（社）能楽協会京都支部常議員。



浦部 幸裕
うらべ ゆきひろ

観世流シテ方
昭和42年生まれ。浦部好弘の長男。井上嘉介、井上裕久に師事。東京芸術大学卒業。同大学にて26世観世宗家観世清和、藤波重満に師事。道成寺、石橋、狸々乱、千歳を披く。京都能楽協会所属。



〈京都和文華の会について〉

京都を基盤とする日本の伝統文化を広く紹介し、その振興と発展を図ることを目的として設立された任意団体で、京都の文化が好きな学者、伝統工芸関係者で構成されています。

本会は、広く市民を対象にして、京都を基盤とする日本の伝統文化を紹介する場を設け、その情報を発信することにより、わが国固有の文化に対する理解を深め、伝統文化の振興と発展を図り、もって世界の多様な文化を受容できる精神的な土壌の育成に努めることを目的として、次の活動、事業を行っていきます。

- ・ 京都の文化にかかわる芸術、芸能、学術、生活文化等の振興を図る活動
- ・ 若い人たちに日本の文化を伝える活動
- ・ 伝統芸術、芸能の普及振興のための事業
- ・ 日本文化伝承のための事業
- ・ その他、本会の目的を達成するための事業

京都和文華の会

事務局／

〒611-0033 宇治市大久保町上ノ山51-35

TEL / FAX 0774-437577